

**令和5年度 徳島県立総合高等学校とくしま政策研究センター  
外部評価委員会 評価結果一覧表**

番号	調査研究名	(1)達成度	(2)先駆性	(3)適正性	(4)実用性	(5)発展性	合計
1	祭り文化継承のための関係人口創出調査	20	20	22	20	21	103
2	にし阿波高校生による地域活性化「聞き書き」プロジェクト	22	20	21	21	23	107
3	ピアスによる金属アレルギーのリスクの情報発信と装飾品の品質表示確立に向けた調査研究	21	24	21	21	23	110
4	家庭の食品ロスを確実に削減する実践的プログラムの開発	20	19	21	23	21	104
5	幼児教育・保育におけるSDGs推進に係る実証的研究	15	17	15	17	15	79
6	被災住宅再建時の消費者トラブル防止を目指した木造仮設住宅の復興住宅への転用技術の開発	17	16	18	19	18	88

※1 評価項目の視点について

- (1)達成度
  - ①研究目的がどの程度達成されているか。
  - ②効果が発揮されているか。または効果の発揮が期待できるか。
- (2)先駆性
  - ①新しい視点、発想による提案等が含まれているか。
  - ②創造性、独自性に富んだものか。
- (3)適正性
  - ①手段やアプローチ方法が妥当か。
  - ②調査や検証が十分行われた内容となっているか。
- (4)実用性
  - ①地域における実用性、実現可能性が高いものか。
- (5)発展性
  - ①新しい知見や価値観が得られるものか。
  - ②また、波及効果があるものか。

※2 評価基準と評価結果の公表について

- (1)～(5)の視点ごとに各委員(5名)が5段階評価「5非常に優れている、4優れている、3普通、2あまり評価できない、1評価できない」で採点を行い、(1)～(5)ごとの委員全員の評価結果の小計、全評価項目の合計(最大評点125点)、併せて、各委員の所見について代表的なものを公表する。

## 令和5年度徳島県立総合大学校とくしま政策研究センター 外部評価委員 所見一覧

調査研究名	研究主体	委員 所見
祭り文化継承のための関係人口創出調査	南部総合県民局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説を立て、調査を試みた点は非常に興味深い。</li> <li>・アンケート結果から得られた様々な情報を地域の担い手づくりへと発展させてもらいたい。</li> <li>・調査目的に書かれている、南海トラフ大地震などで「命を救うことにも繋がる」といった言葉に意識が囚われ、「関係人口を増やす」ことは有意義だと感じる反面、「関わり」の在り方が気になりました。「関与の仕方に関わらず」とまとめにありますが、「関係人口を増やす」「命を守る繋がり」へ、量の次は質への発展も、ぜひ期待したいところです。日和佐八幡神社に限らず同様の課題を抱えている地は多く、汎用性の高い研究だと思います。今後、何らかの実践へ進める際、例えばSNSでの発信は不特定多数が写る写真などプライバシーへの配慮も必要になるかと思いました。</li> <li>・残したい継承である</li> <li>・仮説と異なる結果が出ているが、これこそが「発見」であり、評価したい。</li> <li>・美波町は中学校までしかないので、高校生になると関わりが減るということは確かなので、SNSを活用し、いかに広げていくかが課題だと思います。</li> <li>・過疎地域と次世代への継承という課題は、どこの町にも起こっていることだと思うので、とても難しい課題だと思います。</li> </ul>
にし阿波高校生による地域活性化「聞き書き」プロジェクト	西部総合県民局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した取り組みを、評価したい。</li> <li>・「聞き書き」に取り組んだ高校生にとって、彼ら自身の将来に向けての大きな成果となったことが想像できる。</li> <li>・地域の活性化に熱心な方が多い。ターン、リターンに活用出来る。また、伝承し残すことが大切である。</li> <li>・小さな一歩が地域における大きな希望へと繋がることに期待したい。</li> <li>・冊子の作成から次へのステップが垣間見えるようである。地域の文化、農業、人との繋がりが、今後の地域活性化への契機となることを願う。</li> <li>・参加した高校生が自主的に調査研究を行っていたことがとてもわかりやすく説明できていたように思います。また、作品集も作られており、とてもいい経験になったのではないかと思います。</li> </ul>
ピアスによる金属アレルギーのリスクの情報発信と装飾品の品質表示確立に向けた調査研究	徳島大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究を積み重ね、有力な事業者との連携を進めている。</li> <li>・着目点は良い、素人が穴を開ける場合がある。ピアスを開けている人が多いので興味がある。性別に限らず興味深い。実用性が充分にあり、医療機関で紹介が進めば良いと思う。</li> <li>・パンフレットの作成もでき、次への展開に期待ができる。</li> <li>・若い世代のピアス装着率は高く、中高生の頃より金属アレルギーについての知識を持つことは重要であると思う。</li> <li>・消費者庁などとの連携を図りながら、金属アレルギーへの認識の強化やアレルギー疾患への啓発活動を継続して行ってほしい。</li> <li>・パンフレットの普及等、まだまだこれから進めていくことなので、期待しています。</li> <li>・ただ、安価なものを求める人は一定数いると思うので、難しいところもあるのかと思います。</li> <li>・報告会において、高校生へのパンフレット配布がピアスを理由に拒否されたケースなどの説明がありました。金属アレルギーは歯科治療や腕時計などでも起こり得るもので、若年層への周知には力を入れていただきたいです。パンフレットはよくできていると思いますが、「ピアス」「アクセサリー」といった言葉が一人歩きしてしまう不安も感じます。今回は「特にピアスなどの装飾品による金属アレルギーに焦点を当てた研究で、それについては大きな成果が見え、達成度も高いと感じますが、「今後の展望」にもあるように、ぜひ、より幅広い層への情報提供に挑んでほしいと思います。</li> </ul>
家庭の食品ロスを実践的に削減する実践的プログラムの開発	鳴門教育大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に記載しているように、継続してより広く周知する方法を検討ください。</li> <li>・先駆性があり、今後に繋がる内容である。冷蔵庫の一番上の着目が良い。実用性が充分にあり、周知することで、一人一人が認識すると普段から役に立つと考える。</li> <li>・冷蔵庫内を点検、整理や確認という実践を通し、目に見える食品ロスについて学びができたことを評価したい。</li> <li>・オンライン参加型のプログラムは参加者への負担が少なく、面白い内容だったと考える。</li> <li>・食品ロスの削減で冷蔵庫内の整理から取り組むということに私は全く思い至らなかったもので、とても良いプログラムだと思いました。</li> <li>・高校生の参加は、部活などに募集した方が集まるのではないかと思います。</li> </ul>
幼児教育・保育におけるSDGs推進に係る実証的研究	四国大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの当事者である子供の反応、素材の差異による結果の比較を子供たちに試みさせる、といった子供からの目線の充実を望む。</li> <li>・保育現場における製作遊びに焦点を当てる研究はユニークで、現場の保育者や保護者への浸透も期待したいところ。ただ、今回の研究では代替品として菓子袋、製作物はパラシュートに限っています。その理由等は報告がありましたが、他の代替品、製作物だと、調査Ⅱの評価が変わってくるのでは、という印象が残ります。ぜひ、いくつかの代替品、製作物で試してほしいと思います。また、菓子袋は「かたいものがあるので手を切ったりするかもしれない」といったデメリットをいかに解決するか、幼児期のもので、その考察も発展させてほしいと感じました。</li> <li>・パラシュートを選択した理由が不明、調査期間が短い。</li> <li>・幼児対象のSDGsへの視点は重要だと考える。</li> <li>・幼児期の子供たちが身の回りのどのような物に興味や関心を持つのかという原点に立った上で、SDGsへの入口を探ることが肝要ではないだろうか。</li> <li>・幼児の生活に深く関わる親や保育関係者から彼らの遊びの内容や心身の発達状況を聞き、幼児たちが無理なく取り組むことができる喜びがSDGsへの芽生えとなるのではと考える。</li> <li>・幼児の年齢によって、できることも異なるし、あるもの(リサイクル)で作成し、尚且つ安心安全なものを再利用しということで、アイデアを出すことがとても難しい研究だと思いました。</li> </ul>
被災住宅再建時の消費者トラブル防止を目指した木造仮設住宅の復興住宅への転用技術の開発	阿南工業高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細な事後報告をいただいたので、本件の意義が理解できました。</li> <li>・近い将来必ず起こると想定される南海トラフ地震への対応は、我々に課せられた大きな課題であると捉える。</li> <li>・避難所や仮設住宅から復興住宅への移転の際、被災者の持つ多岐にわたる問題について、関係機関との連携や情報共有が重要である。</li> <li>・木造仮設住宅に使用された木材の再利用を目指し、徳島独自の板倉工法技術の発展に期待したい。</li> <li>・仮設住宅と復興住宅の違いさえ知らなかったため、説明についていけないところもあったが、転用の開発が進めば、被災者の選択肢も広がるし、実現に向けて、これから期待したいと思います。</li> </ul>